

外国人へのアンケート調査結果

生活で困っていること

- 1位：金銭的余裕がない
- 2位：言葉や文化が分からない
- 3位：災害時の対応が分からない

知りたい情報

- 1位：外国人コミュニティ
- 2位：日本語を学べる場所
- 3位：災害時の対応

その他の意見

- ・たくさんの日本人と友達になりたい
- ・市役所やお店などで英語が話せる人が少ない
- ・外国人労働者に対する支援について知りたい

市では、多文化共生の取り組みとして相談窓口の設置や教育支援、外国人災害避難訓練などを行っています。また、在住外国人の現状や意見を参考にするためアンケートを実施。得られた結果を活用し、行政だけでなく、地域が一体となって多文化共生社会を目指すための『古河市多文化共生推進指針』を策定しました。

古河市多文化共生推進指針の策定

多文化共生を目指す市の取り組み

指針の4つの柱

コミュニケーション支援

- やさしい日本語を推進し、多言語対応の充実や相談窓口の強化を図る
- 外国人市民が地域住民と円滑に生活を営めるよう、日本語教育を進める

生活支援

- 日本語指導が必要な児童生徒への対応強化と就学促進・教育環境の整備
- 災害時支援や行政サービス情報の周知

意識啓発と社会参画

- 多文化共生に関する理解を深める場づくり
- 日本人と外国人の市民が交流できるイベントなどを開催する

地域活性化・グローバル化

- 日本人と外国人の市民をつなぐ外国人市民を発掘・育成する
- 外国人市民の知見やノウハウを活用し、グローバル化に対応していく

詳細はこちら



大熊マリベルローズさん
出身▶フィリピン
来日20年目



太田虹雲さん
出身▶中国
来日38年目

外国人アットホーム in 古河

生活の悩み等、相談員が親身に対応しています。

外国人のための生活相談

場所▶ふるさと館
日時▶月～金曜日、8時30分～17時15分(母国語での相談は要予約)
TEL92-1404



20年前に訪日した際、病院や子どもの学校などで言葉の壁に悩まされました。異国で暮らすにはその国の言葉を理解することが大切のため、相談者には日本語教室へ通うことを積極的に勧めています。仕事に忙しい人はオンライン教室もオススメです。今後も経験を生かして、外国人と日本人の架け橋のような存在になりたいと思っています。

38年前に留学生として日本にきました。長年、日本の皆さんに大変お世話になったこともあり、語学を通して何か恩返しができるかと、相談員になりました。言葉がよく分からないと、友達や知人に相談することも多いと思いますが、悩む前にお気軽にご相談ください。

誰一人取り残さない包摂社会の実現に向け、JICA筑波と連携覚書を締結しました▶

「古河市と独立行政法人国際協力機構 筑波センターとの連携覚書」締結式



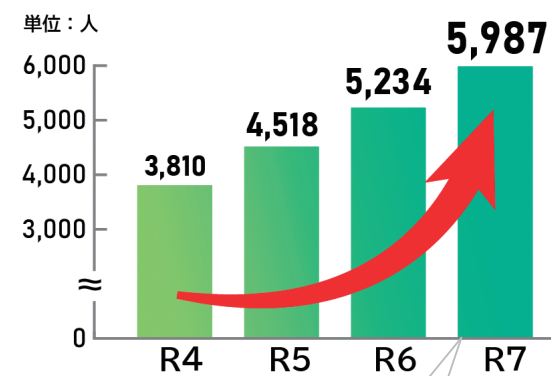
◀SDGs未来都市に選定されました。誰一人取り残さない包摂社会の実現を目指します

考える
多文化共生
国籍の壁を超え
みんなで一緒に作る社会

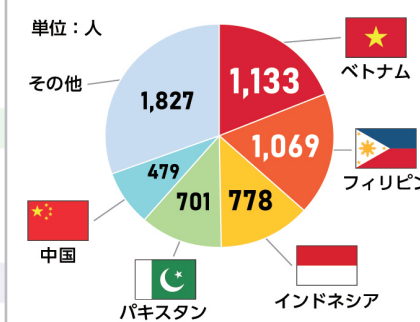
多文化共生とは

国籍や民族などの異なる人たちが、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

市内在住外国人の数(4月1日現在)



主な出身国



今年、市の取り組みや古河市国際交流協会の活動を紹介するとともに、外国人住民の皆さんが感じていることを伺い、誰もが暮らしやすいまちについて考えていきます。

また、SDGsの取り組みにおける「誰一人取り残さない」という理念の下、市ではJICA筑波と連携覚書を締結するなど、多文化共生社会の実現に向けた環境を整備しています。

近年、職場や学校だけでなく、スーパーやコンビニなど日常生活のさまざまな場面で外国人の姿を目にするようになりました。現在、古河市には約6千人の外国人が暮らし、今後もさらなる増加が見込まれています。このような状況からも、国籍や文化の壁を超え、共に古河市民としてより良い関係を築いていくことが重要です。